

公ほすぴたる

組合立病院 ◇ 公立豊岡病院 ◇ 公立豊岡病院日高医療センター ◇ 公立豊岡病院出石医療センター ◇ 公立朝来梁瀬医療センター ◇ 公立朝来和田山医療センター



▲地域の救急医療を守るために何ができるか考えるパネルディスカッションの様子
(6月14日豊岡市大磯町、じばさんTAJIMAにて)



▲会場には関係者・市民ら約380人が集まりました



▲「地域の小児医療を守るために」と題した基調講演の様子
(講師：神戸大学 大学院 松尾雅文教授)

守れ！地域の救急医療 救急医療シンポジウムを開催

地域の救急医療を市民と一緒に考える「救急医療シンポジウム」を、六月十四日(土)に、じばさんTAJIMAで開催しました。(豊岡市・公立豊岡病院組合主催) 基調講演や豊岡市消防本部によるビデオ上映、パネルディスカッションを通して、医療現場の過酷な勤務実態や救急医療の現状を知ってもらい、どうやって救急医療を守るか検討を行いました。

シンポジウムでは、まず、「地域の小児医療を守るために」と題して神戸大学大学院の松尾雅文教授に講演いただきました。講演の中で松尾教授は「救急患者の九五％は緊急性のない軽症患者。このような患者が近年増えており、医師の負担増加につながっている。このままでは地域の小児医療は崩壊してしまう。住民の方々が結束して最後の砦である豊岡病院を守るためにどうすべきかを考えて欲しい。」と会場に向け訴え、その先進的な取り組みとして、県立柏原病院の小児科を守るために住民自身が立ち上がり医師の増加につなげた丹波市の事例を挙げられました。

また、パネルディスカッションでは、応援医師として豊岡病院の間外小児患者の診察に協力いただいている豊岡市医師会の赤松亮医師から「今のようにな易な救急外来の利用によって、小児科医の精神的・肉体的な疲労が蓄積している。」という指摘がありました。それに対して、市民の立場から子育て真っ最中の岩本佐和子さんからは「自分のことだと我慢できるが、子供のこととなると心配で安易に受診してしまう。医学知識がないので間違った対処をしてしまうのが怖い。」という意見が述べられました。

そんな中で、県立柏原病院の小児科を守る会代表の丹生裕子さんからは「子どもを守ろう、お医者さんを守ろう」というスローガンをかけ、「コンビニ受診を控えよう、かかりつけ医を持とう、お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」という市民への三つの呼びかけ運動を進めていることなど、自身の活動を紹介していただきました。これは、本当に必要な人が必要な医療を受けられるように、安易に病院へは行かず、軽い症状の場合は近所のかかりつけ医に行く、そして、医師に日頃の感謝の

気持ちを伝えるというものです。

他にも、丹生さんら守る会は、子どもによく見られる症状ごとに、どう対応すればよいかを簡単にたどることが出来るフローチャート方式の冊子を作り、市民に配っておられるということでした。これらの活動の結果、柏原病院小児科の時間外受診者数は活動以前より大幅に減り、小児科の常勤医師も二名から五名へと増えたということでした。

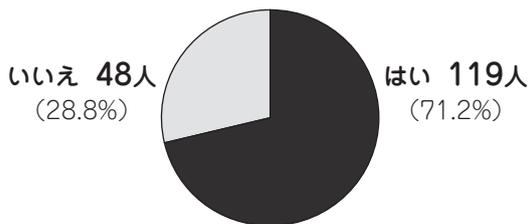
また、会場からは「市販薬で対処できる軽症な患者さんであれば、薬剤師からいろいろアドバイスできるのではないか。地域のかかりつけ薬局としてできることがあるのではないか。」という意見も出されました。



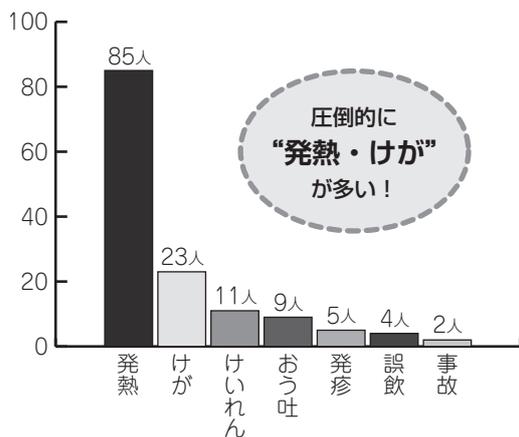
▲会場の外では「守る会」の活動を紹介するブースが設置され、シンポジウムを盛り上げていただきました

救急医療についてのアンケート結果

Q1 救急医療を利用したことがありますか？



Q2 どのような症状で受診されましたか？



Q3 救急医療を受診された感想は？

- 救急なのに1時間以上待たされた。
- 専門の医師ではなく不安だった。
- 薬が1日分しか出ないので、後日もう一度受診が必要だった。
- 特に処置もなく、行く必要がないと思った。
- 大きな病院なのに町医師と同じ診察だった。

Q4 救急医療を守っていくためには？

- 迷うことが多いため、電話相談ができれば受診の判断がしやすいと思う。
- 夜間診察があれば救急に患者が集中しない。
- 医師にかかるタイミングや対処法を学びたい。講演会や印刷物など学ぶ機会が欲しい。
- 親同士の情報交換の場があればいいと思う。
- 急を要するとき以外は救急を利用しない。

救急医療シンポジウムにパネラーとして参加いただいた岩本佐和子さんが、身近な方を対象にされたアンケート結果から抜粋させていただきました。

院内 インタビュー INTERVIEW

第3回

院内インタビュー二回目は、研修医として豊岡病院で二年間を過ごされ、現在は姫路市の病院で後期研修中の三村行医師です。豊岡病院では、毎年、研修医を全国に公募していますが、三村医師は二年前に全国に数ある研修病院の中から豊岡病院を希望して来られた医師です。研修医としての話、一人の若者として豊岡に暮らした印象などについてインタビューしましたので紹介します。



—ご出身はどちらですか？

●神戸の舞子です。大学は北海道大学です。

—豊岡病院には、一位指名で来られたんですか？

●二番目ですね。病院見学は十何ヶ所行きました。もちろん、研修病院として有名なところも行きまじたけど、雰囲気が良いかどうかを一番に

考えて、残ってきたのが、天理よろづ相談所病院と、豊岡病院です。

—研修病院としては全然レベル違いますか？

●研修の歴史とかはもちろんそうです。ただ、病院には施設とか設備のハード面と、実際に患者さんに接するスタッフなどソフト面がありますが、自分が今まで二回手術して入院した経験から、やっぱりソフト面が重要だと思っんです。

—そっなんですか？

●もちろん、良い検査器具や高度な治療機器があるっていうのもメリットだと思います。けれど、例えば、一日一回でもドクターが来てくれるとか、毎日常に接する看護師さんの態度が重要で、いくら良い施設を持った病院であっても、医療者が感じ悪かったら、結局それだけでその病院に対して「何だ!?」って思います

し。僕は二回の入院のうち、一回は良い思いをして、一回は最悪な思いをしてるんです。だから、中にいる「人」とか「雰囲気」を重視しようと思っていた中で、良かったと思っただのが、天理よろづと、ここだったっていうことです。

—豊岡病院を見学をされましたか？

●はい。医学部六年生の時に二週間、実際に臨床をされてる先生を見ました。たまたま僕が見たところが良かったのかも知れませんが、患者さんとスタッフとの距離が近く、雰囲気がすごく良かったんでここにしようと思いました。

有名な研修病院に行った同級生たちは「良い研修病院に行かないと、良い医者になれない。」ってずっと言っています。僕は「そうじゃない。」と思っています。良い研修病院に行ったから、良い医者になれるというのではなく、あくまでその人しただいだと思っています。医者になった最初の二年間って、良い医者になるための英才教育を受ける以前の話で、医者っていう仕事に「慣れる」「ことの方で手間取るだろうな、」と思って。患者さんとの接し方とか、点滴するだけでも。医者の業務の過酷さも含めて、基本で手間取ってしんどいだろうし、慣れるのが大変だろうな。最初の二年間は焦らず、医者っていう仕事に慣れるく

らいでいいかなって。逆に「医者」っていう仕事を嫌にならないようにしよう。と思ってました。

—実際はどうでしたか？

●やっぱり、上のドクターや、看護師さん、患者さんとの関係が、すごくうまくいき、やりがいがありました。雰囲気の良い病院で、集中して医療に取り組めて、でも楽しくできるような研修病院を探して、それがここと天理よろづだったんです。

—二年間の豊岡病院での研修を終えた感想は？

●医者の仕事も嫌いにならなかつたです。医者という仕事に慣れるっていう意味では、すごく良いスタートが切れたんではないかと思っています。ただ、専門に入っていく中で、いざ3年目だ、自分が主治医になるんだと考えたときに、やっぱり、病歴、身体所見、感染症のよう基本的な部分が力不足かなと。



自分なりに勉強しても、正しいかどうかフィードバックがなかったところでは船出に不安を感じています。

—では但馬の生活はどうでした？

●結構楽しかったですね。学生時代が北海道で、意外に自然が好きなことになりました。色白だからそうは見られないんですけど(笑)

—やっぱり、仲間がいたから楽しかったんじゃないですか？

●僕は、同じ研修医仲間の林先生がいたのが大きかったですね。お互い寂しがりやなくて(笑)。

—あと、豊岡での思い出みたいなものは？

●「柳まつり」は楽しかったですね。—田舎だし雪降るし、楽しくないって思われそうですが、そんなことはない？

●ないですね。ただ、これまでの生活と違って病院が生活の中心になるんで、季節感はなくなりましたね。いつの間にか外来に子供が増えて夏休みに入ったんだなあ、とか。あと、田植えの時期とか、稲刈りの時期なんか、必ず患者さんが減るじゃないですか。で、その前後に入院させて欲しいとか、そういうのがすごく新鮮でしたよ。地域の生活と医療が結びついているのが、地域医療の醍醐味だなあ、と思いました。

—今度、姫路の病院に行かれますが、なぜ、そのまま豊岡病院に残らないのですか？

●専門を呼吸器内科に決めたんですが、やはり専門医の資格ですね。

今は、あれば得ではないけど、ないと損する可能性があるんです。この呼吸器の先生に相談したら、姫路の医療センターを紹介していただきました。見学に行くと雰囲気良かったです。

—専門医取られてから、戻って来られるかも知れない？

●帰ってきますよ。

—その言葉、広報されますよ(笑)

●え、だって、向こうの院長にも伝えてありますし…

—色んな事情が出てくると思いますが、基本的に戻ってくる？

●姫路では呼吸器の資格を取る一方で、自分に足りない病歴とか身体所見とか、そういう基本的な部分を同時に学べたらいいなと思っています。

●僕の理想の医師像は、確かな技術を持っていながら、人間的にも精神的にも素敵な医師です。実力があることがプロとしての前提だと思うので、イチローの様に持っている技術は一流だけと無愛想っていうのも、医療のプロとしての一つのあり方だとは思いますが…。

—最後にこの病院について、何かあれば一言、二言…

●各科の部長クラスには、この地域に根ざされ、考え方もしっかりされていて、いわゆる親分肌的な、トップとしてすごく良い先生がいます。各科の横のつながりに関しても、ある程度柔軟性があり、すごく仲がいいという雰囲気、ドクター陣の横のつながりも良いというのを感じますよ。

●救急や小児科とか、色んな問題が頭を化してきた中で、豊岡病院を去っちゃうのは心苦しい部分があります。トップの人には、もうちょっと現場で頑張るスタッフの努力を認めてもらいたい。もし、認めているなら、行動として示していただきたいと思っています。

●Quality Of My Life、自分の生活が大切だっていう先生もいますけど、本当にいい病院だったら、田舎だろうが給料高い低い関係なしにやってきますよ、絶対に。

—先生、どうもありがとうございました。またお会いできるのを楽しみにしています。



豊岡病院からお知らせ

豊岡室内楽講習会

講師による特別出張コンサート

久合田 緑 (ヴァイオリン)・林 俊明 (チェロ)
林 由香子 (ピアノ)

日時 平成20年8月18日(月)
時間 午後7時～8時30分
場所 公立豊岡病院外来ホール



▶前回のコンサートの様子

日高医療
センターから
お知らせ

8月
から

現在予約受付中です

特定健診(メタボ健診)始めます

※ただし、当院では特定保健指導は行っておりませんのでご了承下さい。

近年、生活習慣が原因で起こる動脈硬化性の病気が増加しています。この生活習慣病は、「内臓脂肪」を減らすことで発症を抑えられることがわかってきました。そこで、内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)を早期に見つけだし、改善するため「特定健康診断」「特定保健指導」がはじまりました。

● 健診日時と申込み方法

- ◆ 健診日時 / 月・水・木・金曜日 13:30~16:00 ※必ず事前予約が必要です。
- ◆ 申込方法 / 来院もしくはTEL・FAXにて予約下さい。
(FAX用の申込書・問診票はホームページからダウンロードできます。)

● 健診の流れ

13:30	受付 問診票記入
14:00	採血・身体計測・ 血圧測定・検尿
15:00~16:00	医師の診断・結果説明

● お申込・お問合せ

日高医療センター健診センター

電話番号 0796-42-1611 (内線506)
FAX 0796-42-1650

※お問合せいただける時間は平日の午前9時から午後3時30分までです。

眼科電話相談について

眼科センターでは平成20年6月より夜間・休日等の眼科電話相談を開始いたしました。

電話相談では、夜間や休日に突然発生した目の病気やケガについて、日高医療センターの当直看護師が症状をお聞きします。その上で、当院と八鹿病院の当番眼科医と相談し、対処方法をアドバイスしております。夜間・休日の外来診察は基本的には行いませんが、相談内容によっては緊急の診察などを当院または八鹿病院で行っております。皆様の適切なご利用をお願いします。

つぎのような緊急性が高いと思われる症状については、時間帯にかかわらず、すぐに下記番号にご連絡ください。

- 突発的な視力障害 (急に目が見えなくなってきた)
- がまんできない程の目の痛み など

日高医療センター眼科センター

電話番号 0796-42-1611
受付時間 平日 18:00~21:00
土日・祝祭日 9:00~21:00

平成21年度公立豊岡病院組合職員採用試験のご案内

試験職種	募集人員	採用試験	受験資格	受付期間	試験日・会場
助産師 看護師	45人	●教養試験 ●作文試験 ●適性試験 ●面接試験	昭和43年4月2日以降に生まれた者で、来春に当該資格免許を取得見込みの者、又は当該資格免許取得者	平成20年 9月1日(月) ? 9月30日(火)	平成20年 10月15日(水) 統轄管理事務所 第一会議室
理学療法士	1人	●教養試験 ●作文試験 ●面接試験	昭和53年4月2日以降に生まれた者で、来春に当該資格免許を取得見込みの者、又は当該資格免許取得者	平成20年 8月11日(月) ? 8月29日(金)	平成20年 9月17日(水) 統轄管理事務所 第一会議室
診療放射線技師	1人		昭和49年4月2日以降に生まれた者で、来春に当該資格免許を取得見込みの者、又は当該資格免許取得者		
臨床工学技士	1人				

※募集要項は統轄管理事務所総務部人事課(公立豊岡病院2階)にて配布しています。
※助産師・看護師の募集要項は8月4日から配布します。それ以外の職種は既に配布中です。

《正規職員の採用に関するお問合せ》

公立豊岡病院組合
統轄管理事務所総務部人事課

TEL0796-22-6111 内線2102・2103

震災総合防災訓練に 豊岡病院DMATチームが参加

五月三十一日、豊岡市日高町の円山川防災センター周辺で、大規模な地震を想定した『豊岡市震災総合防災訓練』がありました。

豊岡病院からは医師や看護師などで構成するDMATチーム（災害医療派遣チーム）がこの訓練に参加しました。災害現場に設置された医療救護テント内での負傷者の治療や、トリアージ訓練のほか、がれきの下敷きになった負傷者をがれきの下に潜って治療にあたるなど本番さながらの訓練内容でした。



▲訓練全景



▲救護テントの様子



◀▲がれきに埋もれた負傷者を治療するDMATチーム

豊岡病院にAEDを設置

豊岡病院では七月から、正面玄関や時間外玄関などにAEDの設置を行いました。

AEDとは

けいれんし、全身に血液を送り出せなくなった状態（心室細動）の心臓に対し、電気ショックを与えて、平常の心機能を回復させるための医療機器です。心室細動発生から一分経過することになると救命率が70%以下になると言われ、いかに早く救命処置するかが生死を分けます。

操作方法は簡単、
一般の方でも安心して使えます

電源を入れ電極を胸に貼りつけると自動的に機器が心電図を解析し、心室細動かどうかを判断し必要な電気ショックを指示します。すべての操作は音声ガイダンスで救助者に指示してくれ、除細動が不要な場合は、電気ショックが実行されないようにプログラムされているため、誰でも安心して使えます。



▲正面玄関入ってすぐの場所に設置したAED

新任医師紹介

新たに職員になりました!!どうぞよろしくお願ひします。



豊岡 脳神経外科
おおた けんへい
医長 太田 耕平



日高 眼科センター
いしはら けんじ
石原 健司



和田山 内科
よしだ まさみ
医長 吉田 雅美



豊岡 麻酔科
はん ひろこ
伴 浩子



豊岡 産婦人科
はん けんじ
伴 建二

【豊岡病院総合診療部】 (組合外病院勤務の者)

八鹿病院総合診療科

医長 谷 鎮礼

異動医師紹介

医師の病院間異動をお知らせします。

【豊岡病院総合診療部】

豊岡病院へ 小松 素明 (和田山医療センター)
和田山医療センターへ 三宅 直美 (豊岡病院)
豊岡病院へ 林 宏樹 (和田山医療センター)

退職医師紹介

お世話になりました。

・豊岡病院 耳鼻咽喉科 市丸 和之
・和田山医療センター 内 科 守本 明枝
・豊岡病院 脳神経外科 森下 暁二
・日高医療センター 眼 科 湯 才勇
・豊岡病院 小 児 科 田口 和裕
・豊岡病院 麻 酔 科 山下 博
・香住病院(総合診療部) 総合診療科 安東 直之

◇発行 公立豊岡病院組合 ◇〒668-8501 豊岡市戸牧1094 ◇TEL 0796-22-6111(内線2111)

◇URL : <http://www.toyookahp-kumiai.or.jp/> ◇E-mail : kikaku@toyookahp-kumiai.or.jp

●本紙掲載の写真・イラスト・記事の無断使用・無断転載は禁じます。